

# あいち中央農協

## 〜〜〜地元と協力して地産地消〜〜〜

あいち中央農協（碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市）は、安城市を中心とした米・麦・大豆の生産を始め、碧南市のにんじん、たまねぎ等の露地野菜、安城市、碧南市が中心のいちじくなどの果実の生産が盛んな地域である。また、「地産地消」に積極的に取り組み、地元農産物の農産物直売所での販売、学校給食へ提供、加工品の開発・販売などに力を入れている。

学校給食においては、安城市、碧南市を中心に青果物を納入しており、また、ジャムなどの加工品の納入も行っている。

### 1 青果物の取組状況

#### (1) 取組のきっかけ

青果物における学校給食の取り組みは、平成12年度に安城市及び碧南市それぞれの農務担当課が調整役となり、学校給食側と農協を集めた会議の場が設けられたことから始まり、平成13年度から両市で本格的な納入が始まった。

#### (2) 主な納入先

現在では農協管内の安城市、碧南市、刈谷市の3市に地元産の青果物が納入されているが、そのなかでもある程度大きなロットが揃う産地を抱え、市を間に入れて調整をしてきた安城市及び碧南市に多くを納入している。

#### (3) 主な納入品目

安城市には、にんじん、キャベツ、だいこんを始め、こまつな等の葉もの類が多く納入され、チンゲンサイについては周年納入されている。碧南市へは、特産のにんじんの他、だいこん、こまつな、ほうれんそう等が主に納入されている。

#### (4) 納入方法

##### ア 配送

安城市の3給食センター及び碧南市の2給食センターには、農協からトラックで8時30分から9時までに直送している。給食センターへの納入は時間厳守であるが、配送経費を抑えるため、合計5給食センターへの配送に対して出発時間や配送ルート工夫して、現在3台のトラックで対応している。

##### イ 荷姿

納入には基本的に折りたたみコンテナを使用している。生産者に農協までコンテナで出荷してもらい、給食センターへ納入したコンテナは、次回の配送時に回収する仕組みとなっている。折りたたみコンテナでの納入は、ダンボールに比べ開封等の手間が省け、ごみも出ないことから給食センターにも喜ばれている。

## 2 加工食品の取組状況

農協では、地元の農産物を使用した加工食品の提供にも力を入れており、特産である「いちじく」や「なし」を使用したジャムの納入や、地元産大豆の豆乳を使用した「豆乳ゼリー」の開発などを積極的に行っている。今後も地元産の米、麦、大豆等を使用した加工食品の開発を行い、学校給食を通じた地元農業の理解促進に取り組んでいく。

### あいち中央農協が学校給食に供給した地元農産物等（平成16年度）

農産物	大豆、チンゲンサイ、にんじん、こまつな、ほうれんそう、たまねぎ、キャベツ、きゅうり、だいこん、はくさい、ブロッコリー、とうがん、みつば、さといも、とうもろこし、ピーマン、かぼちゃ
加工食品	いちじくジャム、なしジャム、豆乳ゼリー
畜産物	鶏卵

## 3 農協の学校給食への考え方

農協として学校給食への納入に取り組む意義としては、学校給食を通じて地域の将来を担う子供達の農業理解を深め、さらに子から親へそれが伝わることで、地域の人に地元農業への理解を深め、応援してもらうことがあげられる。ただし、そのためには、学校給食への供給を単発で終わらせず、継続していくことが重要であり、生産者の収入面も含め、農協の事業として成立させる必要がある。

また、学校給食では、入札で1か月間の納入価格が事前に決まるため、農協の販路拡大のひとつの方向である契約取引の増大につながる取り組みと位置づけている。

## 4 学校給食の取り組みの課題

- 物流面において、学校給食はその性格上、給食センターへの納入時間が厳しく決められており、配送先が増加すると、その負担も増加するため、それに対する工夫が必要。
- 少しでも長い期間地元の青果物を供給するため、野菜の作型の延長や生産する品目の拡大など、生産側の工夫も必要。

## 5 今後の方向

学校給食への供給については、管内の市から相談も増えており、農協への期待も大きくなってきていることから、今後も、現在供給の少ない管内の市も含めて増やしていきたいと考えている。学校給食への供給を増やしていくためには、受け入れ側、供給側双方の工夫が必要であり、また、給食に使う食材のすべてを農協が供給することは不可能であることから、卸売市場や他の納入業者との共存関係を維持し、「地元でとれた新鮮な食材」を供給することを主眼に事業を継続していく。